

contents

わが国の性教育の現状と課題…………… 1	多様な性のゆくえ⑭…………… 12
思いこみのめがね③…………… 9	今月のブックガイド…………… 13
性教育の現場を訪ねて⑮…………… 10	JASEインフォメーション…………… 14

わが国の性教育の現状と課題

東京医療保健大学看護学部教授
齋藤益子

性教育の現状

現在のわが国の性教育がどのようになされているのか、その現状について全体像を把握するのは容易ではない。性教育は、実施される地域や場所、また、受講対象となる児童・生徒や学生などにより異なり、さらに、教育する側の職種や立場によっても内容や進め方が異なるからである。

そこで今回、「わが国の性教育の現状と課題」について筆者が把握できる範囲で述べてみたい。

1. 文部科学省の学習指導要領に示されている性教育の内容¹⁾

文部科学省における学習指導要領は平成29年3月に改訂されたものが公表されている。

1) 小学生への指導

表1 小学第4学年に対する学習指導要領の一部抜粋

体の発育・発達について理解できるようにする
解説：①男子はがっしりした体つきに、女子は丸みのある体つきになるなど、男女の特徴が現れることを理解できるようにする。②思春期には、初経、精通、変声、発毛が起り、また、異性への関心も芽生えることについて理解できるようにする。③これらは、個人によって早い遅いがあるもののだれにでも起こる、大人の体に近づく現象であることを理解できるようにする。④指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である。

各学校では4年生女子に月経教育が行われる。しかし、多くの学校では射精教育を中心にした男子への性教育は十分ではない現状がある。また、一般に使用される「性教育・二次性徴」ということばは使用され

ていない。筆者は初経教育を終えた5年・6年生を対象に「命のバトン」として生命誕生の話をしており、『成長する自分の体を知ろう』²⁾を指導テキストにしている。

2) 中学生への指導

表2 中学生への学習指導要領の一部抜粋

心身の機能の発達と心の健康について理解できるようにする(中学1年生)。

解説：①思春期には、下垂体から分泌される性腺刺激ホルモンの働きにより生殖器の発育とともに生殖機能が発達し、男子では射精、女子では月経が見られ、妊娠が可能となることを理解できるようにする。②身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、性衝動が生じたり、異性への関心などが高まったりすることから、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることを理解できるようにする。③指導に当たっては、発達の段階を踏まえ学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である。

健康な生活と疾病の予防(中学3年)

解説：①エイズ及び性感染症の増加傾向とその低年齢化が社会問題になっていることから、その疾病概念や感染経路について理解できるようにする。②予防方法を身に付ける必要があることを理解できるようにする。例えば、エイズの病原体はヒト免疫不全ウイルス(HIV)であり、その主な感染経路は**性的接触**(※「性交」という用語は使用していない)であることから、感染を予防するには**性的接触をしないこと**、コンドームを使うことなどが有効であることにも触れるようにする。③指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である。

男子の精通平均年齢は13.2歳、女子の平均初経年齢は12.3歳であり、中学生への性教育は大変重要である。学習指導要領には、表2に示すように総論として示されている。中学3年生で、性感染症の予防としてのコンドームの使用が有効であることには触れているが、コンドームについての正しい使用法などは指導外になっている。具体的に性感染症の予防について、感染経路や性的接触をしないことなどをどのように指



写真1

導するかは個々の教育者に委ねられており、学校の校長の方針の違いや、教員の学習指導要領の解釈の違いなどから、内容に大きな差があるのが現状である。筆者は妊娠や出産に関する中学生の理解のための教材として、『生命の誕生～私たちの命のバトン～』を出版している(写真1)³⁾。

3) 高校生への指導

表3 高校生の学習指導要領の一部抜粋

保健の科目の観点

健康の保持増進と疾病の予防

内容：①感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられる。②その予防には、個人的及び社会的対策を行う必要がある。

解説：①感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られることを理解できる。その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、エイズ、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることを理解できるようにする。②感染症の予防には、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であることを理解できるようにする。

生涯を通じる健康—生涯の各段階における健康

①思春期における心身の発達や健康課題について特に性的成熟に伴い、心理面、行動面が変化することについて理解できるようにする。これらの変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を尊重する態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることを理解できるようにす

る。なお、指導にあたっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮する。

②健康な結婚生活について、心身の発達や健康状態など保健の立場から理解できるようにする。その際、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解できるようにする、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについても理解できるようにする。また、結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康への責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子への健康診査の利用などの保健・医療サービスの活用が必要なことを理解できるようにする。なお、男女それぞれの生殖にかかわる機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。

高校では、上述の様に、集団教育としては総論で、必要時に具体的な指導は個別に対応するという方針である。性に関しては結婚生活と合わせて教育することになっており、性教育としてよりも生涯を通じた健康という視点であり、実際の授業でも「コンドームの付け方」は不要なのである。

わが国では「雨降り保健」といわれ、晴れたら体育、雨がふったら保健という学校もある。性教育は保健体育の担当教員の裁量に委ねられており、体育を専門にしている教師はほとんどの時間を体育に費やし、保健の授業はテキストを読ませて終えている現状もある。

文部科学省の学習指導要領に示された「性に関する箇所」の表現は極めて表面的であり、明確な性教育の内容を示すものではない。田代は「過激な性教育バッシングが激化するなかで、性交やコンドーム、避妊などの科学的な知識を扱う性教育が過激な性教育とされ、現在でも文科省は性教育を積極的に推進する姿勢は示していない。」と述べ、日本は東アジア諸国の中でも遅れていると指摘している⁴⁾。

望まない妊娠や性感染症に悩む高校生がいる現実とは乖離したものである。筆者は高校生向けのテキスト『もしも妊娠したら… 中絶しますか？ 産みますか？』(写真2)⁵⁾を作成している。

2. 小・中・高生への性教育の実態⁶⁾

「性教育」というキーワードを用いて医学中央雑誌で検索すると、平成24(2012)年～平成29(2017)



写真2

までに307の文献がヒットし、そのなかで発達段階に添って述べているものが157件にみられた。内訳は、高校生に関する報告が最も多く58件、次いで大学生50件、中学生28件、小学生21件であった。

1) 小学生への性教育

小学生への性教育は、すべての学校で月経教育が実施されているはずであるが、文献としては多くない。幼少期からの教育も含めて、小学生への教育は、性に関する基本的な考えを醸成する教育として位置づけられる。学校の保健体育として科目が構成されており、体育の合間に保健の時間をとるので、体育が主になっている現状がある。

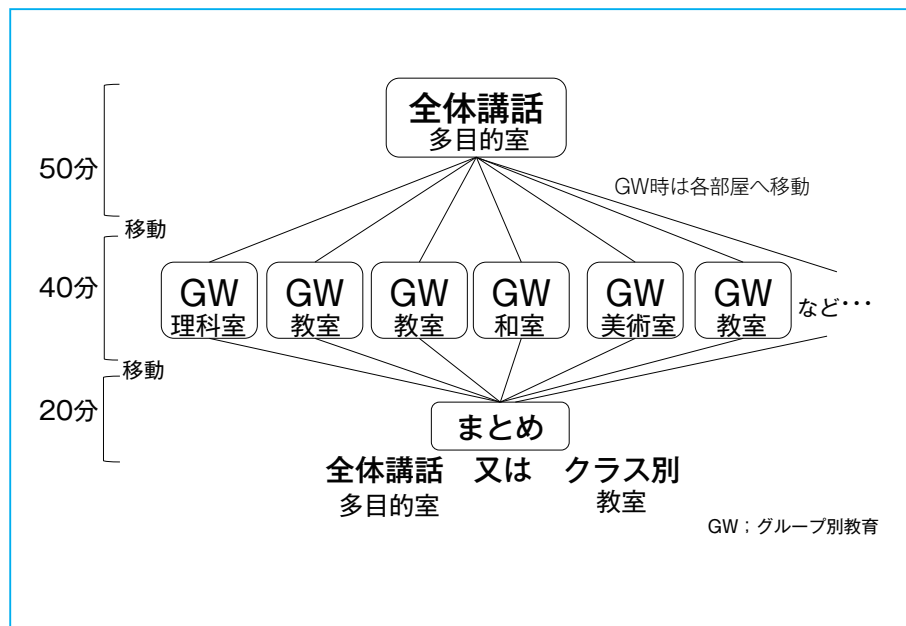
小学校では担任教諭が性教育を担っている報告があり、日常生活指導とも併せて清潔指導や初経教育がなされている。道徳教育としても相手を大切にすることやいじめなどの問題についての講話があり、性について語られることは少ない現状がある。

筆者は平成4年から、都内の幾つかの公立小学校において性教育を実施してきた。小学校では、平成4年に初めて人間の性を取り入れた授業がはじまり、これは理科と保健の授業として行われ、某小学校での15時間の授業が公開授業として行われることになった。

この授業で印象に残っているのは、「性交」ということばを使わないようにとのことで、代わりに「交尾」ということばを使った。人間の性を「交尾」として語ることに違和感を覚えたことを思い出す。

小学生では5年生と6年生に対して、命の誕生について語ることが多く、実施校の養護教諭の先生に4年

図1 性教育の流れ（実施時間:2時間）



次に月経教育を済ませていただき、その上の学年で生命創造、人間の誕生について語っている。赤ちゃん人形を持参して抱っこ体験やおむつ交換などをさせながら、人間の命が親から子どもに繋がり、自分も親から愛されて生まれてきたことをイメージさせ、1個の卵子と精子が選ばれて出会い、奇跡的な時間を経て1人の人間として誕生する、その神秘的ともいえるプロセスを、「命のバトン」のテーマで動画を用いて説明している。

医療者が出向くことでよりリアリティのある授業にすることができる学校から期待されており、助産師の多くは出前授業として学校に出向いて性教育を行っているが、各県の助産師会が窓口になって受けており、地域の小学校への助産師の出前授業として行われている⁷⁾。

2) 中学生への性教育

中学生の性教育に関する報告は、28件みられた。その内容は、性教育の実態に関する報告8件、性教育授業の効果に関する報告6件、中学生の性知識と意識7件、ピアカウンセリングに関するもの2件、性暴力に関するもの2件、その他3件であった。中学生は思春期の真っただ中で、性教育には重要な時期であるが、研究的にまとめた報告は少なかった。義務教育の小学生・中学生への性に関する調査研究はハードルが高い現状が窺える。

筆者らは、平成17(2005)年～平成19(2007)年に文部科学研究の一環として、都内の中学校の先生方と性

教育の授業案を作成している。プログラムは、2コマの時間を設定していただき、前半は「いのちのバトン」と題する講話を行い、後半はグループ別教育を行っている(図1)。

このグループ別教育は、生徒を10名程度のグループに分け、看護学生1人が1グループを担当する。男子学生が参加できる時は、男女別にグループをすることもある。グループ別教育は小グループなので生徒たちの身近なところで話ができ、質問もし易い。また、年齢の近い大学生なので、生徒は緊張することなく気軽に参加でき、生きた知識が身に付くと好評である⁸⁾。学生を同伴する際には、性に関する基礎知識の提供や、生徒への接し方、グループの動かし方などについて事前教育が必要になる。

都内の2校の中学校では、3コマを用いた授業を行っている。1コマ目は全体への講話、その後、各クラスに学生が入って給食を生徒と一緒に食べ、2コマ目にグループ別教育を行い、最後に男女別に分かれてのまとめの講話をするという流れである。生徒と給食を共にすることで親近感が湧き、その後のグループ別教育が密度の濃いものになる。学生も自分の話を中学生が熱心に聞いてくれるという体験をして、自己肯定感が高まり、双方にとって大きな学びの時間になっている。

これらの性教育の時間は、科目ではなく特別教育、道徳教育の位置付けであることが多い。そのため、熱心な教員がいる学校では計画されるが、学校関係者、特に校長先生の価値観に左右される。校長が異動する

と授業の依頼がなくなり、逆に熱心な教師が移動すると、移動先に呼ばれることもある。

3) 高校生への性教育

高校生に対する性教育の報告は58件で、内容は高校生の性知識と性意識に関するもの18件が最も多く、次いで性教育の実態に関するもの12件、ピアカウンセリングに関するもの8件、性教育と性意識、及び性教育の評価に関するものがそれぞれに5件、その他10件であった。

実際に東京都においても高校生に対する性教育は東京産婦人科医会に依頼されて、高校の所在する地域の医師が派遣されている。しかし、性教育を産婦人科医会に依頼する学校は少なく、約200余の都立高校のなかで平成29(2017)年は32校だったようだ。

志賀は⁹⁾、「秋田県内の中学生・高校生を対象とした性教育講座の実際」として以下の報告をしている。秋田県における性教育講座は、1990年代の10代の人工妊娠中絶率が全国平均より高い数字であったことに端を発して、秋田県教育庁・秋田県教育委員会が秋田県内の全高等学校へ性教育講座講師派遣事業を開始している。また、秋田県医師会でも、秋田県の若年出産・中絶数の多さや日本におけるHIV/AIDS増加の現状をふまえ、2003年、性教育プロジェクト委員会を立ち上げて性教育派遣講座の窓口になっている。性教育講座では、生命の大切さ、性感染症、男女交際、妊娠・出産・避妊、妊娠中絶などについて、学校ごとの実態に即した講演が行われているという。

性行動を開始する年齢である高校生に対しては、避妊や性感染症などの具体的な性行動のもたらす問題について講演することが必須であり、コンドームの具体的な使用法などに触れる場合もある。実際に、「健やか親子21」の一次計画でも、コンドームの正しい使用法は高校生に対する必須の知識とされている。

前述した文部科学省の学習指導要領では、結婚生活という基本的概念のなかで必要時には避妊をすることで、その一つの方法がコンドームを用いることであることを理解させ、夫婦間において避妊が必要な場合の知識としているため、コンドームの具体的な使用法などの実践的な教育は高校では実施できない。現実には高校生は性行動を開始する年代であり、平均初婚年齢が約30歳であることを考えると、教育と現実の性行

表4 東京都産婦人科医会（木村好秀）作成の性教育スライド内容

性教育スライド：大きく揺れうごく思春期
—君たちの心と身体そして性—

- ①思春期について
思春期とは 思春期の身体と心 思春期とホルモン 二次性徴
- ②思春期女子のからだの悩み 性周期 月経とその異常
- ③思春期男子のからだの悩み 性器の形状 精通 包茎 など
- ④妊娠出産の生理 親になる条件 望まない妊娠と人工妊娠中絶及びその影響
- ⑤避妊法について 基礎体温法 コンドーム法 低用量ピル 緊急避妊法
- ⑥性感染症について 梅毒の歴史 HIV/AIDSの現状 4大性感染症（クラミジア感染症 淋病 性器ヘルペス 尖圭コンジローマ）
- ⑦性感染症の予防 子宮頸がん HPVワクチン
- ⑧性情報について 読書の重要性 メディアリテラシー
- ⑨男女の性衝動の違い 性衝動とそのコントロール（マスターベーションの仕方）
- ⑩生と性 性の三側面 愛と恋の違い 男女交際の仕方
- ⑪日常生活を規則正しく 心身の健康と将来の夢の実現

動には大きな乖離がみられる¹⁰⁾。高校生までにコンドームの正しい使用法を含めた避妊と性感染症に関する実践的な教育を進めていく必要がある¹¹⁾。

都立学校教育部健康増進課が平成23年(2011)度に都立高校243校の管理者に行った調査¹²⁾によると、派遣を希望する専門家は産婦人科医が187名で最も多く、保健師69名、助産師58名。指導して欲しい内容は、性感染症179名(73.7%)、10代の妊娠・出産141名(58.0%)、思春期の発達136名(56.0%)、性情報134名(55.1%)の順で、性感染症の希望が最も多かった。それは、日頃の生徒の言動をはじめ養護教諭や保護者から性感染症についての具体的な事例を提示され、性教育で学ばせたいという結果だと思われる。

4) 大学生への性教育

大学生に関する文献は、これまでに受けた性教育に関する調査がほとんどで直接大学生に対する性教育実

実践報告はみられなかった。亀崎は¹³⁾、179名の大学1年生に対する調査から、8割以上が生理的・生物学的の内容、避妊法、性感染症について学んでいたが、性の持つ多様な意味や心理的側面、不安や悩みの相談の仕方、子宮がん、自慰については学んでいないと報告している。

高校までの性教育は妊娠・避妊・中絶、性感染症などに関する総論的教育が多く、大学生になってから役立つパートナーとの関係性の作り方やコミュニケーション、悩みへの対処、LGBTなど、生きる力に直接かかわる内容については育成されていない現状が述べられていた。また林は¹⁴⁾大学生の性行動およびライフスキルに関する実態調査から、大学生の性行動に伴うライフスキルが身につけていない現状を述べ、高校までの性教育が具体的な知恵として身につけていないことを指摘している。

筆者は看護大学において母性看護学などを教授している。看護系大学では妊娠・出産・育児や家族計画、避妊、人工妊娠中絶、性感染症、生殖医療など女性の健康に関する科目を学ぶ機会があるが、他の学生は自分の身体に向き合う科目は少ない。婚前期にある大学生に対しては、妊娠出産に関する知識や、自分のライフプランについてなど、広い意味での性教育が必要で、晩婚化・晩産化に伴う不妊症の増加の問題を考慮すると、卵子の老化に関する情報は女子大学生に必須である。妊娠・出産の適齢期は25歳～35歳¹⁵⁾であることを20歳代前半までに伝えておきたい(図2)。

3. 性教育の様々な方法

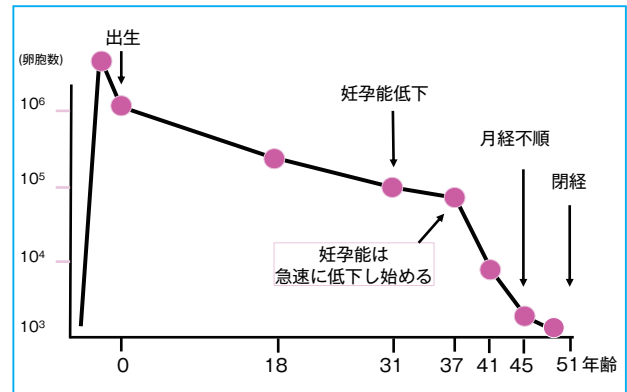
1) 教師による授業

小学校から高校生までの性教育は、保健・体育、道徳、特別活動などの授業として行われる場合が多く、その場合は前述した学習指導要領に基づいて実施される。学校関係者は文部科学省の学習指導要領の枠をはみ出すことがないように注意しながら授業をすすめている。

2) 医師や助産師の出前授業

性に関する講話の依頼は産婦人科医、助産師に依頼されることが多い。医師は産婦人科医会が窓口になり、地元の医師が担当することが多い。主にスライドを用

図2 加齢に伴う卵胞数の変化



いて講話形式で進められる。各都道府県の助産師会は出前授業の窓口になり、地域の学校と連携しながら授業を進めている。助産師は「生と性、命のはなし」など、生きるための教育や生命誕生について語ることが多い。またそのための教材も開発している。代表的なのは、「温もり胎児」であり、開業助産師の手作り教材である。筆者も性教育の重要な教材として用いている。妊娠週数別に胎児と胎盤の大きさと重さがわかる模型である。

3) 思春期ピアカウンセリング

ピアカウンセラーによる性教育は、①自分を大切にすること、それは心と身体と将来の夢を大切にすること、②自分を支えてくれる他者の存在を尊重し、その人達とのあいだで信頼し合うコミュニケーションが取り合えるようにすることを基本とした活動である。

4) 障がい児への性教育、養護施設での性教育

心身障害を持つ子どもへの性教育や発達障害を持つ子どもたちへの性教育も性の健康の権利として行われている。妊娠や生命の誕生など理解しやすくするための教材も工夫されている。

また、養護施設に入所して親からの愛情を受けていない子どもたちへの自尊感情の育成や自分や相手を大切にすることを努力している医師や看護職もおり、関係者の地道な努力に支えられている。

4. 学会等における性教育への取り組み

1) 日本性感染症学会

ホームページ上に性感染症予防教育のための教材を公表し、自由に使用できるようにしている。

2) 日本思春期学会

性教育あり方研究会や有害メディア検討委員会などの報告書を公表している¹⁶⁾。学術集會に併せて「性教育認定講師制度」、及び「思春期学研究者育成」のためのプログラム開始している。

3) 日本家族計画協会

思春期のセミナーや家族計画指導など様々な研修を企画運営して、教育者の育成を図っている。家族と健康の機関誌の発行や思春期保健相談士の育成もすすめている。

4) 性の健康医学財団

ホームページで性の健康に関する情報の提供、メール相談を行っている。また、「性の健康カウンセラー」養成を開始し、性教育担当者や性の健康の個別相談ができる人材の育成を目指している。

表5 性感染症から身体を守るための7カ条

- ①他にパートナーがない1対1の関係 (steady) でいよう お互いに感染していなければ安心
- ②元カレ・元カノについてパートナーに隠さず話し合おう 疑わしい相手とはセックスをしない
- ③STIの症状 (帯下、発赤、発疹、疣、膿など) がないか 相手を観察しよう。心配ならセックスをしない。
- ④セックスする時は、何時もコンドームを確実に使おう オーラルセックスの時も同じ
- ⑤STIの症状や兆候を知り、心配な時は速やかに受診しよう 早期発見・早期治療が基本
- ⑥症状のないSTIも多いので、定期的に検査を受けよう 女性の場合は性器クラミジア感染症を放置すると危険
- ⑦セックスをしない! それも選択肢の一つである。

(性の健康医学財団 電話相談ガイドブック一部改編)

5) 日本性教育教会

『現代性教育研究ジャーナル』を通して性に関する情報を提供するほか、全国性教育研究団体連絡協議会の「全国性教育研究大会」開催に協賛して教育委員会やPTA 連合会、校長会などと連携して学校関係者や医療職への情報提供・研鑽の場としている。

また、各種の性教育に関するセミナーの開催に協賛している。

性教育の課題

1. 性教育実施上での留意点

- 1) 個別に生徒に対応する際には、個人情報取り扱いに留意し、学校や保護者への連絡は本人の了解を得て行う。
- 2) 集団教育、グループ教育、個別教育を目的や内容別に配慮して行う。
- 3) 性を大切なもの、価値あるものとして捉えられるように、教育する者自身が性に対して肯定的な価値観を持ち、性を隠蔽したり歪曲したりせず率直に話す。
- 4) 子どもの成長発達段階や性に関する知識・意識に添って適切な内容や表現を考慮し、効果的な教材を選定する。
- 5) 基本的に男女合同で学ぶことが望ましいが、高校生は男女別々に行くと女子では効果的¹⁷⁾であるので柔軟に対応する。
- 6) 各学校の教育理念、外部講師への性教育に期待する内容を知り、連携を保ちながら進める。また、生徒に性教育講話への希望や性知識・性意識などを予めアンケートして、それらを参考に講話内容に取り入れるのもよい。

2. 性教育実施者の姿勢

- 1) 生徒の希望する性教育の内容を含めての指導
- 2) 性教育で大切にしたいこと¹⁸⁾
 - ①信頼される関係のなかでの講話——真実を語る (truth telling) 性教育は人間教育であり、教育者の人間性が大きく影響する。「真実を語る」「期待を裏切らない」ことが大切である。
 - ②パートナーを求めあうことは自然

他人を愛しお互いが理解し合い尊敬できる関係作りは、人間関係の基本であり、性交は多くのものをお互いに与えあう行為である。愛することの意味や素晴らしさを語る。
 - ③優しさと勇気

性教育は相手を思いやる「優しさ」とNOと

言える「勇気」を育てることである。

④性教育に期待されること

人格の基礎を形成する性教育は性器教育ではなく、「生と性」の教育、人間教育そのものである。自立した性行動がとれて不足している知識は自ら獲得していく学習態度を育成することが期待される。

3. これからの性教育のあり方

わが国の性教育の根本的な原因は、学校教育の中に性教育が位置付けられていないことである。学習指導要領に必ず付されている歯止め規定があり、コンドームの教育は家族を作るという前提での教育であり、子どもたちの知りたいことや必要なことはベールに隠された情報となり、理解されないまま安易な性交を迎え、その結果妊娠や性感染症、暴力的な性に結びついている。

そこで、今後の性教育のあり方として、以下のことを提言したい。

- 1) 性教育は家庭教育の一環でもあり、毎日関わる親や保護者が子どもの性的発達段階に応じて適切に支援する。そのためには親への支援が大切である。
- 2) 性教育を看護系大学や助産師会と連携して、地域の子どもの生きる力教育として推進する。
大学生によるピアエデュケーションや助産師会の出前授業をシステム化し、小・中・高校の性教育に導入する。
- 3) 看護系大学ではリプロダクティブ・ヘルスの理念のもとに、教育課程に性科学の科目を設けピアエデュケーターとして地域の性教育を支援する。また、教師の育成課程に性教育を必須とすることも必要である。
- 4) 地域で性教育が気軽にできる場や相談窓口をつくる。スウェーデンのユースクリニックの活動を参考にした性教育を行う。
- 5) 男子には性被害の加害者にならないように自己をコントロールする力を醸成し、女子には性被害に遭わないために、自分の身体のしくみを知り、男女の性衝動の違いなどについても理解させておく必要がある。

- 6) 思春期からの不妊予防として妊孕性に関する教育やライフプラン教育を行う。

以上、子どもたちが性の健康を守り、パートナーを得て豊かな人生が送れるように必要な性教育が推進されることを心から願う。

【引用文献】

- 1) 森良一：学校における性に関する指導について（学習指導要領に基づいて）、スポーツ・青少年局学校健康教育課、文科省ホームページ
- 2) さいとうますこ：成長する自分の体を知ろう、インタープレス 2007
- 3) さいとうますこ：生命誕生——私たちの命のバトン——、インタープレス、2006
- 4) 田代美江子：東アジアにおける性教育の制度的基盤——韓国・台湾・中国と日本——、現代性教育研究ジャーナル、2014.3.15、日本性教育協会
- 5) さいとうますこ：中絶しますか、産みますか、インタープレス、2006
- 6) 齋藤益子：わが国の性教育の実態、教育と医学 no.776、48-57、2018
- 7) 助産師学生が出向く「いのち」の教育——小学生編、藤本薫 齋藤益子、助産雑誌 62 (8)、681-684 平成 20 年 8 月
- 8) 助産師学生が出向く「いのち」の教育——中学生編、松永佳子 齋藤益子、助産雑誌 62 (8)、686-689 平成 20 年 8 月
- 9) 志賀くに子「秋田県内の中学生高校生を対象とした性教育講座の実際」日本赤十字秋田看護大学紀要・日本赤十字秋田短期大学紀要 20、77-80、2015
- 10) 厚生労働省人口動態統計 平成 28(2016)年 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakuteil6/index.html>
- 11) 助産師だから伝えたい、いのちの教育、齋藤益子、助産雑誌 62 (8)、674-679、平成 20 年 8 月
- 12) 木村好秀：都立高校における専門学校医による性感染症予防教育の現状と課題、ニューズレター性の健康、第 15 巻 1 号:P10-11、2015。
- 13) 亀崎明子他 「大学 1 年生が今までに受けた性教育の内容と性の知識・意識・行動の実態及び性教育の課題」山口県母性衛生学会誌 28 巻 P6-12、2012
- 14) 林桐代ら「大学生の性行動およびライフスキルの実態」大阪府立大学看護学部紀要 18 (1) 45-55、2012
- 15) 上澤悦子：わが国の性行動の問題点と性教育の課題、教育と医学、no.776、58-65、2018
- 16) 齋藤益子 井口一成 高村寿子 平岡友良 村瀬幸浩 木村好秀 堀口雅子：思春期における性教育のあり方、思春期学、平成 21 (2009) :27 (4) 351-360、
- 17) 齋藤益子、木村好秀：高校生の性意識と性行動に関する実態——都内某公立高等学校における調査成績——、思春期学、平成 11 年 6 月
- 18) 木村好秀、齋藤益子：思春期における性教育とそのあり方、産婦人科治療平成 21 (2009) :99 (6)、627-634

思いこみ の めがね

シゲせんせーのポジティブライフ

鈴木茂義 Suzuki Shigeyoshi



公立小学校非常勤講師。14年間の公立小学校正規教諭、主任教諭を経験。専門は特別支援教育、教育相談、教育カウンセリングなど。

「気持ち悪いから、見ないで」

小学校の音楽準備室に呼ばれた私は、初恋の女の子Aちゃんにそう言われました。ショックでした。私の初恋は、あっけなく終わったのです。

小学生の私は、近所に住むお兄ちゃんたちと遊ぶのが好きでした。缶蹴り、秘密基地づくり、サッカー野球など、ありとあらゆる遊びをしました。4人兄弟の長男の私は、そのお兄ちゃんたちに憧れの気持ちをもっていました。お兄ちゃんたちにくっつき過ぎて、「おい！ シゲ！ 気持ち悪いから、そんなにくっつくなよ！」と言われたこともありました。ゲイとしての性的指向の目覚めは、小学校1年生か2年生くらいでした。

「他の男の子は、みんな女の子のことを好きになるらしい」ということを、学校や地域、友達との会話の中で何となく理解していきました。そして、「男の子に興味がある自分は、他の男の子と違うらしい」ということも、何となく理解していきました。

小学校高学年になると、好きな女の子Aちゃんことができました。黒髪の似合う、勉強もスポーツもできる転入生の子でした。Aちゃんが気になるので、国語の時間も体育の時間も、よくその女の子を眺めていました。体育の準備運動で、ラジオ体操をするときです。後屈の度に、私の後ろに並んでいたAちゃんを見ていたこともありました。体育の授業の後に私は、Aちゃんの友達に「Aさんがシゲのことを呼んでいるから、音楽準備室に来て！」と言われました。私はAちゃんに告白されるのかと思いました。しかし、Aちゃんの口から出た言葉は「気持ち悪いから、見ないで」でした（準備運動の後屈のたびに人から見られたら、確かに気持ち悪いですね。反省しました）。

中学生になると「好きな男の子」「好きな女の子」「好きな男の先生」がいる状態になりました。性的指向がグラグラと揺れている状況でした。

好きな男の子（B君）は、運動もできて人望も厚い

人気者でした。B君とは3年間、同じクラスになることはできませんでした。しかし、私から声をかけているうちに、仲良くなることができました。部活終わりに学校から一緒に帰ったり、好きな女の子の話をしたり、私にとって楽しい時間でした。好きなB君の前で、好きな女の子（Cさん）の話をするという、少し不思議なシチュエーションでした。B君には自分の気持ちを伝えることはできませんでした。好きな人と親しくなるってこんなに楽しいことなんだなと思いました。

好きな女の子（Cさん）は、頭脳明晰で優しく落ち着いた人でした。Cさんとは、手紙のやり取りをしていたこともありました。自分の気持ちを告白したこともありましたが、勉強面で切磋琢磨できるよい友達でした。

好きな男の先生（D先生）は、僕が先生になるきっかけを与えてくれた人です。理科が専門の、若い先生でした。D先生が私の担任や理科の教科担当になったことはありませんが、これまた私から何だかんだと理由をつけて、

D先生に近づいていきました。中学校3年生のときは、進路の相談にもたくさんしてもらいました。経済的に厳しかった家の状況も理解してくれていて、優しい言葉もかけてくれました。D先生とかかわる中で「学校の先生って、いい仕事だな」「先生になったら、毎日笑って過ごせそうだな」と思えました。

高校生になっても、性的指向に関して同じ状況が続きました。「好きな男の子」「好きな女の子」「好きな男の先生」がいる状態です。ただし年齢を重ねれば重ねるほど、性的欲求がどんどん男の子や男性に向いていきました。そんな自分に戸惑いながら、好きな男の子との友情に一喜一憂しながら、高校生活を送っていました。

こうして自分の子ども時代を振り返ってみると、私の性的指向は揺れていました。と同時に「自分は何者なのか」「どうやってこれから生きていくか」という気持ちも揺れていました。揺れている自分や心を「安定させたい」と必死になっていましたが、実は揺れているその状態すらも「安定」だったのではないかと思います。

みなさんにも「揺れ」、ありますか。

第3回

揺れる子ども時代

好きな男の子、好きな女の子、好きな男の先生

[鳥取県米子市立尚徳中学校] (上)

前例が少ない LGBT の授業。 模索しながら構築していった

鳥取県米子市は、「山陰の大阪」と呼ばれて古くから商業都市として発展してきた。米子市立尚徳中学校は、その米子市の南部に位置し、東南に田畑が広がり、玄関からは大山^{だいせん}全景を仰ぎ見ることができる豊かな自然に囲まれた中学校である。今回は、初めての試みで手探り状態から始まったという、米子市立尚徳中学の LGBT に関する学習の取り組みをご紹介します。

LGBT 教育の重要性を痛感

米子市立尚徳中学校では、2016 年から 2 年生の人権学習として「LGBT」の理解を深める授業をスタートした。

同校の人権教育主任の岡田誠一教諭が、性的マイノリティに関する研究の第一人者である宝塚大学の日高庸晴教授の研修に参加したことがそもそものきっかけだったという。

「日高先生は研修の最後、『私たちは研究者なので、最新の情報を提供することしかできません。あとはここにいらっしゃる先生方がこれからどう行動されるかです』と言って話を閉じられた——ドキッとしました。クラスに 1～2 人は性的マイノリティの子がいることになるという調査結果があります。その事実を突きつけられて、正しい知識を持ち理解することの必要性を感じたのです」(岡田教諭)

文部科学省は 2015 年 4 月 30 日に通知「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」を全国の教育委員会発出したのに加え、翌年 4 月 1 日に「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について(教職員向け)」を発表している。

地方自治体を中心に LGBT に対する理解・関心が徐々に進んでいるが、その一方で、差別や偏見はまだ根深い。

2015 年 8 月には、一橋大学の学生が同性愛を暴露されて自死したという痛ましい事件もあった。

日高教授が 2016 年に全国の LGBT を対象に実施し

米子市立尚徳中学校

校長 長尾 修

生徒数 282 名 職員数 32 名

(2018 年 5 月 1 日現在)

たインターネット調査(有効回答数国内在住の 15,064 人)では、いじめ被害(全体で 58%、10 代に限定すると 49.4%)、不登校(全体で 21.1%、10 代に限定すると 31.9%)、刃物で自分の体を傷つけるという自傷行為(全体で 10.5%、10 代に限定すると 22.9%)であったという。



岡田誠一教諭

岡田教諭は「偏見や差別からいじめがなくなる。死を選ぶ人がいるという現実を考えて、LGBT に関する学習の重要性を強く感じた」と語る。

実践校を視察し、授業計画を構築

尚徳中学校では、各学年ごとに人権課題のテーマを決めて学習を行っている。

2 年生の 2 学期に人権教育参観日がある。このときに LGBT をテーマにした授業ができないだろうか——岡田教諭はさっそく 2 年担任の学年会で LGBT に関する学習の提案をし、ほかの教師たちの意見を聞いた。

「先生方からは『過去に、性別違和を持っていると思われる生徒がいた。その子のことを思いながらもどう接していいかわからなかった』『自分の友人にも同性愛者がいる』という意見も出て、自分たちもしっかり学びたいという方が多かったです。LGBT に関する学

LGBTの授業に向けての取り組み

【2016年度の取り組み】	
7月27日	学年会
8月10日	鳥取県立米子工業高等学校の取り組みを聞く
9月15日	先進校視察（愛媛県丹原東中学校）、LGBT支援団体「レインボープライド愛媛」の代表者とミーティング
9月24日	LGBTの認知度向上活動をしている鳥取大学のサークル「虹色らくだ」の方とミーティング①
10月17日	鳥取大学「虹色らくだ」の方とミーティング②
11月2日	学年別授業検討会（指導助言者：竹本先生／米子市教育委員会）
【2017年度の取り組み】	
6月27日	米子市人権教育研修会参加
7月26日	学年会①（授業検討会Ⅰ）
8月4日	LGBT支援団体「FRENS」代表者とミーティング
8月10日	LGBT支援団体「レインボープライド愛媛」の代表者とミーティング
8月22日	研究職員会／土肥いつきさん（セクシャルマイノリティ教職員ネットワーク副代表・高校教員）講演
10月18日	学年会②（授業検討会Ⅱ）（指導助言者：竹本先生／米子市教育委員会）
11月8日	学年会③（授業検討会Ⅲ）（指導助言者：竹本先生／米子市教育委員会）

習の準備を行いながら、私たち教師もその中で学んでいこうということが決まったのです」（岡田教諭）。

準備の第一歩として、「まずは実践校に学ぼう」と2015年からLGBTに関する学習に取り組んでいる鳥取県立米子工業高等学校に話を聞きに行ったという。

さらに実践している中学校の話も聞きたかった。しかし、当時は県内中学でLGBTに関する学習に取り組んでいる中学校がなかったため、鳥取県の教育委員会に問い合わせたところ、全校でLGBTの学びを進めている愛媛県西条市の丹原東中学校を知ったという。

さっそく、授業を行う学年団（2年団）で愛媛県丹原東中学校に視察に行くことになった。

視察の際には、丹原東中学の人権学習に深く関わっているLGBT支援団体のレインボープライド愛媛の代表者とも知り合うことができた。代表者自身の体験や丹原東中学の教員や生徒とのやりとりなどの話も聞くことができ、大きな学びにつながったという。

その後は県内でLGBTの認知度向上のために活動

LGBTの授業計画（全5回）

	テーマ	指導時間帯（授業時間）
第1次	マイノリティについて考える	学級活動（1時間）
第2次	性について考えよう	学級活動（1時間）
第3次	人権学習講演会Ⅰ「レインボープライド愛媛」代表者	総合的な学習（2時間）
第4次	人権学習講演会Ⅱ「FRENS」代表者	総合的な学習（2時間）
第5次	高校生の作文を通して学ぶ	道徳（1時間）

している鳥取大学のサークル「虹色らくだ」も訪ね、授業内容も助言してもらうなどミーティングを重ねることができたという。

まったくの手探り状態で始まったLGBTの授業計画だったが、さまざまな出会いや協力を得て少しずつかたちになってきた。

全体的な授業計画については、岡田教諭が提案し、細かな授業内容に関しては学年会で意見を出し合った。さらに米子市教育委員会にも指導・助言をあおいで、最終的な授業内容・授業計画を詰めていった。

共通認識をもって授業にのぞむ

授業を行うにあたって、2年団で話し合い、授業に取り組む姿勢を確認した。

「目の前に違和感や悩みを抱えている子どもが『いるかもしれない』ではなく『必ずいる』ことを想定して授業を行う。教師全員が共通認識をもとうということになりました。私たちがわかっていないだけで、クラスに1人ないし2人は必ずいるという認識を教師自身もっていないと、仮定の遠い世界の話になってしまいます」と岡田教諭は語る。

また、岡田教諭は、「性は男と女の2つだけではなく、ましてやLGBTの4つにカテゴライズされるものでもない。すべての人が自分の性をちゃんと理解しているわけではなく、自分の性が理解できず、悩んでいる人も多いと聞きます。性はグラデーションのように多様で、当然であるが、自分自身の性もこのグラデーションの中の1人であることを知ってほしい」ともいう。

「LGBT」という初めての授業に取り組み、教師も生徒もどのような学びがあったのだろうか。それについては、次号で紹介する。

（取材・文 エム・シー・プレス 中出三重）

多様な性の ゆくえ

One side/No side [14]

宮田 一雄

みやた かずお
ジャーナリスト。公益財団法人エイズ
予防財団理事、特定非営利活動法人エ
イズ&ソサエティ研究会議事務局長。

時代の土俵も変化する

高校時代のラグビー仲間と60歳以上のシニアチームを作って、春と秋に練習や試合の真似事を始めてからもう9年になる。楕円のボールを持つだけでも楽しい。高齢者ラグビーの基本は安全最優先。年齢による衰えも考慮し、60歳以上は還暦の赤パンツ、70歳になると幸せの黄色いパンツをはくことが許される。

赤パンツの選手は黄パンツへのタックルを控え、スクラムは押し合わない。練習のほぼ半分は柔軟体操やストレッチングにあてているので、往年の名選手も「老化防止にちょうどいいや」と参加する。

9年前には赤パンツの最若手だった私も、そろそろ黄パンツの購入を考える年齢になった。

月日のたつのは早い。高校時代は超軽量フォワードとして相手に吹っ飛ばされながらグラウンドを走り回っていた。もう半世紀以上も前のことだ。真似事とはいえ、最新のルールと理論を学びながら練習していると、ああ、ラグビーもずいぶん変わったなと思う。

技術的なことは別にしても、たとえば練習中に水を飲むなどということはかつて、もってのほかとされていた。いまとなつては、理由はよく分からない。

最近では練習中も一定間隔でウォーターブレイクをとって水分補給を行う。

試合中の選手交代も認められていなかった。誰かが負傷したら、14人で闘う。もう一人、けがをしたなら13人で闘う。文句は言わない。それが「男の潔さ」であり、当然のことと受け止められていた。

いまは反則でイエローカード（10分間の一時的退場）やレッドカード（即時退場）の処分を受けた時を除けば、チーム間で数的な不均衡が生じることは基本的にない。負傷した選手の代わりというだけでなく、戦術的な交代も認められている。

頭を打った時などは、脳へのダメージを避けるために意識があっても10分間はフィールドから退き、医師が様子を見る。その間はりザーブ（交代要員）の選手が代わってプレーをする。

危険なプレーに対するイエローカードやレッドカー

ドが出される頻度も以前よりずっと多い。とくに首から上へのタックルには反則が厳しくとられる。

昔はラグビーといえば「紳士のスポーツ」を自負し、選手は男子のみだった。いまは女子のW杯大会もあるし、五輪では7人制ラグビーが男女共通の種目になっている。選手だけでなく、女性レフェリーの活躍も目覚ましい。わがシニアチームの試合でも昨年、女性レフェリーに主審をお願いした。

女に男の試合がさばけるのか、などと考えるのはもちろん偏見である。実際に試合をして、自分がまさしくその偏見の持ち主であったことも分かった。

最近のラグビーは選手と審判が意思疎通を図りながら試合を作っていく。審判が選手に対し、どうしてこのプレーを反則と判断したかを説明し、選手がその趣旨を確認するために質問することもある。

時代は変わっている。その変化をプレーやルールに取り入れることで、競技としてのラグビーはますます魅力を増しているように思う。

京都府舞鶴市では今年4月4日、大相撲春巡業の土俵にあがってあいさつをしていた市長さんが突然、倒れた。客席にいた女性数人が土俵に駆け上がり、心臓マッサージなどの救命措置を迅速に行ったため、市長さんは一命をとりとめている。

このとき若い行司さんが、女性は直ちに土俵から降りるようというアナウンスをしたことが、物議をかもした。大相撲の土俵は古くから「女人禁制」のしきたりがあるからというのがその理由だったようだ。

日本相撲協会の八角理事長は当日の夜、協会を通じ「行司が動転して呼びかけたものでしたが、人命にかかわる状況には不適切な対応でした。深くおわび申し上げます」という談話を出している。

この談話がまた、「人命にかかわる状況」でなければ女性は土俵にあがれないのかという新たな反発を招くことにもなった。相撲協会にとっては、立ち合いの変化ならぬ、時代の変化に対応する好機ではないかと遅ればせながら申し上げておきたい。

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

情報量も質も充実した入門書

折しも評論家の勝間和代さんが女性のパートナーと暮らしていることを公表し、話題になっている。勝間さんは、自分が同性を好きになることをずっと悩んでいて、今回の「カミングアウト」は「人生で最大の勇気が必要だった」と語っている。考えてみると、日本で、すでに社会的に立場を確立している著名人が同性愛をカミングアウトした、初めてのケースかもしれない。ネットなどでの揶揄はあるにせよ、世間は概ね好感を持って受け止めている様子ではある。が、彼女ほどの女性リーダーが「人生で最大の勇気が必要だった」と力むほど、いまだ同性愛を明らかにするのは敷居が高いのだ。

本書は、その「カミングアウト」という行為を中心にLGBTの置かれた状況や、性的指向や性自認の多様性について解説する入門書である。どうして異性愛者はわざわざ自分の性愛の傾向について明らかにしたりしないのに、同性愛者らはそのようなことをするのか？「カミングアウト」によって相手との関係性はどのように変わるのか？…といった疑問を、当事者の経験した「ストーリー」を題材に考察していく。

著者は文化人類学者で、LGBTのアクティヴィズムやHIVの啓発活動に長く関わってきた砂川秀樹さん。経験値と知的教養の厚みから、配慮の行き届いた議論をしていて、初学者ならずとも勉強になるはずだ。

さて、異性愛者はどうして「カミングアウト」しないのか？という問題であるが、砂川さんはこう指摘する。「実は、異性愛者は、様々な話を通して自分が異性愛者であることを語っている。…例えば、自分の結婚生活のことを語る、夫や妻、あるいは彼氏や彼女の話をする、あるいは、好きなタイプの異性について言うこと、また異性間の恋愛や性の経験談や悩



カミングアウト

砂川秀樹著
朝日新聞出版
定価 760 円+税

み話などをする形でだ」。異性を性愛の対象とする人がマジョリティであるために、改めて自分のことを異性愛者と思ったりしないのだ、と。

先の勝間さんに関する報道を受けて、漫画家の倉田真由美さんが、「最近、彼氏とうまくやっているの？」みたいなことを彼女にずけずけ聞いていたので、今回、謝罪したという。ことほどさように、よほど意識の高い人であっても、疑いもせず異性愛を前提に語っていたりするものだ。そうした社会のなかで同性愛者らが自身を偽らず、自然に生きるためには、どうしても「カミングアウト」という「わざわざ」のコミュニケーションを図る必要が出てくる。

ところで、「性についての好み」には、例えば「熟女が好き」とか「SM」とか「腐女子」とか…様々あるのに、どうして「LGBT」が社会的にフィーチャーされ、はては「カミングアウト」のような行為が生じてくるのか。砂川さんの答えは、「それが『性別に関係する問題』だからだ」。良くも悪くも、「性別が人を区分する最も重要な軸として機能しているから」。筆者の言葉に換言させてもらえば、同性愛やトランスジェンダーは、前者は性的対象が、後者は自身の認識が、男/女（性別）という根本的な社会制度に触れる。つまり、既存の社会の根本的な原理と摩擦を生じるからだだろう。それゆえに、「同性愛者」とか「トランスジェンダー」とかいった社会性を帯びた、強い「性の主体」が析出されてくる。

こうした問題にまで議論が広がっているところが本書の魅力であり、すでにある初心者向けの本にはない思考の深さを体験することができる。もちろん、各章に置かれた当事者による「カミングアウトストーリー」を読むだけで、当事者の痛みや切実な思いを知り、共感を得ることも容易だ。新書ながら、情報量も、その質も充実した入門書の登場に、LGBT運動の成長を実感することができるだろう。（作家 伏見憲明）

全国性教育研究団体連絡協議会

▶ 8月9日(木) 13:00～19:00
8月10日(金) 9:30～15:50 ◀

第48回 全国性教育研究大会

第47回北海道性教育研究大会札幌大会

テーマ

「生きる力」を育む性教育を目指して
～学校と関係機関が課題を共有し、連携した性教育の実践～

プログラム

- 1日目**：13:00～13:50 **開会行事** 挨拶・祝辞・開催地報告・次期開催地挨拶
14:00～14:50 **基調講演** 「学校における性に関する指導の充実について(仮題)」横嶋剛(文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課健康教育調査官)
15:00～16:30 **記念講演** 「性別違和の理解」池田官司(北海道文教大学教授)
17:00～19:00 **懇親会** ホテルライフォート札幌 17階「サラ」(会費5000円。参加自由)

2日目：9:30～12:00 **分科会**

「小学校における性教育の実践」 「中学校における性教育の実践」
「高等学校における性教育の実践」 「特別支援学級・学校における性教育の実践」
「性教育の課題について様々な立場からの取組」

13:15～15:45 **課題別講座**

「性教育を学校全体の教育活動として進めるために」
堀内比佐子(全国性教育研究団体連絡協議会事務局長)
「知っていますか?デートDV」
須藤陽子(札幌市市民文化局市民生活部男女共同参画室男女共同参画課課長)
「助産師が育む『性』と『いのち』の話」
高室典子(一般社団法人北海道助産師会会長)
「思春期の教育と医療の連携」
藤井美穂(カレスサッポロ時計台記念病院・女性総合診療センター)
シンポジウム「性的マイノリティについて」
司会・遠藤俊明(札幌医科大学産婦人科/時計台記念病院)

会場 ホテルライフォート札幌(北海道札幌市中央区南10条西1丁目 TEL 011-521-5211)

定員・締切 定員・締切/300名・平成30年6月29日(金)締切(定員になり次第締切)

参加費・問い合わせ先等

参加費/両日参加：一般6000円、学生2000円、1日参加：一般3000円、学生2000円

主催/全国性教育研究団体連絡協議会、北海道性教育研究会

協賛/日本性教育協会 後援/内閣府、文部科学省、厚生労働省ほか

問合せ先/札幌市立柏中学校内全国性教育研究大会・北海道性教育研究大会札幌大会事務局

TEL011-521-2341 FAX 011-521-2343

申込み先/<http://he7.seikyoku.ne.jp/home/zenseiren/index.html> (「全性連」HPから新規申込)あるいは、

(株)近畿日本ツーリスト北海道札幌教育旅行支店 TEL011-281-5434 FAX011-251-7052



7月28日(土)～29日(日)



SEE (Sexuality Education and Empowerment)性教育アカデミー2018

性教育における価値と倫理

SEEがモデルとするのは、ユネスコなど国連諸機関や国際学会が推奨する「包括的なセクシュアリティ教育」(CSE)です。学校や地域社会でこれから性教育をしていきたい、あるいは立場上しなければならなくなったという初学者はもちろんのこと、実践経験者にとってもCSEの基盤となる価値(人権・多様性尊重など)について学び直し、役立つプログラムを提供します。

内容

◆1日目(10:00～20:30)

- ①性教育の5WIH 東優子(大阪府立大学)
- ②人権としての性教育 小貫大輔(東海大学)
- ③価値と性の倫理 トミ・パーラネン(セクスポ財団)
- ④ふりかえりワーク & 懇親会

◆2日目(9:30～16:30)

- ①ふりかえりワーク 東優子(大阪府立大学)
- ②性と生殖の健康 池上千寿子(ぶれいす東京)
- ③多様性・つながり・実践 土肥いつき(京都府立高校)
- ④性の安心と安全 野坂祐子(大阪大学)
- ⑤ふりかえりワーク 吉田博美(駒澤大学) ほか

会場 大阪府立大学 I-Site なんば(大阪市浪速区敷津東 2-1-41)

主催 SEE **共催** 大阪府立大学教育福祉研究センター、セクスポ財団(フィンランド)

参加費・問合せ先等

参加費: 20,000円(2日間・日英通訳・懇親会費含む) 定員 20名(事前予約)

協賛: 日本性教育協会 後援: 大阪府立大学女性学研究センター

問合せ・申込み先: ①氏名、②所属、③連絡先(メールアドレスおよび電話番号)を記入のうえ

SEE事務局 kansaishy@gmail.com にメールで申し込みください。

7/28(土)
7/29(日)

第1回 ピアカウンセリングセミナー

～仲間に寄り添いながら主体的な自己決定を支えるピアカウンセリング～

1日目: オープニングエクササイズ、8つの誓約(効果的なピアカウンセラーになるために)、アクティブリスニング、感情と向き合う。

2日目: オープニングエクササイズ、感情と向き合う4つのステップ、コ・カウンセリング実習、小集団を中心としたピアカウンセリング、ピアカフェ、終了式。

【講師】 高村寿子(自治医科大学名誉教授/日本ピアカウンセリング・ピアエディケーション研究会代表)

前田ひとみ(熊本大学大学院生命科学研究部教授/日本ピアカウンセリング・ピアエディケーション研究会副代表)

【会場】 平和と労働センター・全労連会館 2階ホール
(東京都文京区湯島2丁目4-4)

【問い合わせ先等】

主催/一般社団法人日本家族計画協会 受講料/21,600円(税込) ※思春期保健相談士は19,440円(税込) 定員/60名
対象/精神的に健康で、保健師、看護師、助産師、(管理)栄養士、医師、養護教諭、教諭、保育士、カウンセラー、など。

問合せ先/〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館 一般社団法人日本家族計画協会 研修担当

TEL 03-3269-4785 URL <http://www.jfpa.or.jp>

関西性教育研修セミナー 10周年記念誌

性について、語る、学ぶ、考える



昨今は、性教育・性科学の世界にも新しい風が吹きつつある。性教育をめぐる5W1H（誰が、何を、誰に、いつ、どこで、どのように教えるのか）には、異なる価値観の対立が伴うがゆえに、時として激しいバッシングに見舞われることもある。同時代を生きる古い仲間や新しい仲間とのつながりを大切にしつつ、性教育を次世代につなぐために自分たちにできることは何かを常に問い続けてゆきたい。

本書は、関西性教育研修セミナーの10年間の取り組みをまとめるとともに、セミナー登壇者の何人かにお願いし、現在の性の課題と今後の展望について執筆いただいた。さまざまな現場や経験に基づくバリエーションある報告は、まさに性の幅広い側面を示している。

- 編集／関西性教育研修セミナー実行委員会
- 発行／日本性教育協会
- A4判・ソフトカバー 128頁
- 頒価 800円

主な目次

性暴力

教育現場における性暴力被害への支援と課題／野坂祐子
性暴力の「理解」と「治療教育」を求めて／藤岡淳子
規定される性、聞こえない声。／岡田実穂
資料

HIV / AIDS

記者から見たエイズ対策／宮田一雄
「ちいさな学校」の経験／ブ・ド・ラ・マドレーヌ
HIV / エイズについての医療現場からのメッセージ／白野倫徳
HIV と性の健康／生島 嗣
資料

性の多様性

「語る」社会か「語らなくていい」社会か／土肥いつき
性別違和と子どもたち／康 純

「性」について考えること：西から東、そして北東北へ／宇佐美翔子
「性の多様性」と共生する社会に向けて／東 優子
資料

性教育

30年の性教育の実践／秋山繁治
知的障がいのある生徒への性の指導と支援／池川典子
LGBTを排除しない性教育のあり方／東 優子
資料

性と社会

社会は性に蓋をかぶせる／池上千寿子
「死にたいと思いつつも、助けてほしい」／渋谷哲也
二人の性科学者と Nature vs. Nurture 論争／東 優子
性科学／教育の過去・現在・未来／ミルトン・ダイヤモンド
資料

◆本書は JASE ホームページ <http://www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html> からお申し込みいただけます。

または、Email info_jase@faje.or.jp TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478 までお申し込みください。